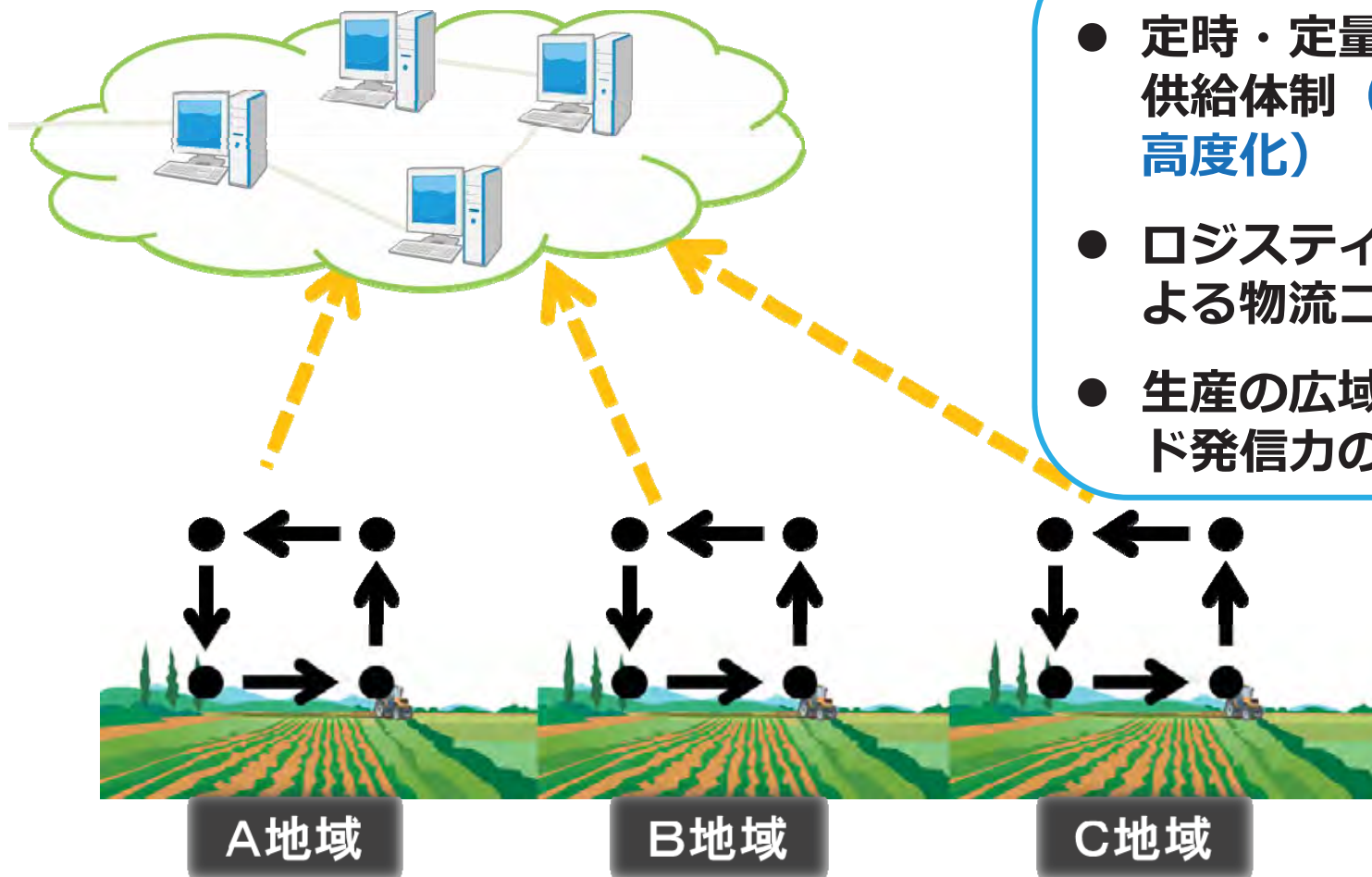


## 広域連携の促進

### 期待される効果

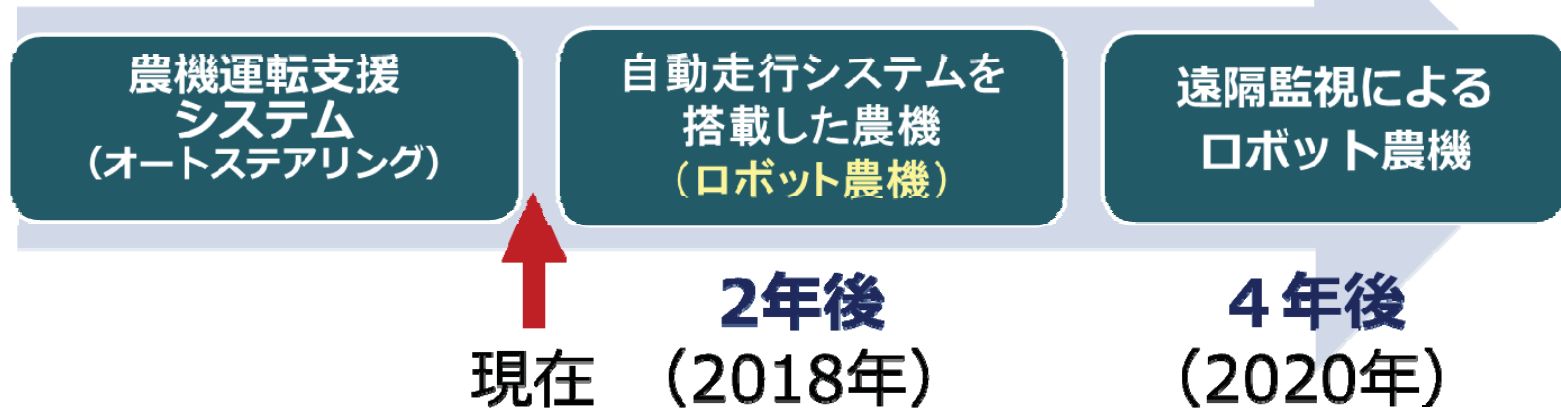
- 定時・定量・定品質の生産供給体制（リレー出荷の高度化）
- ロジスティクスの最適化による物流コストの削減
- 生産の広域化によりブランド発信力の強化



### 社会実装のポイント

- 情報収集の効率化
  - ✓ 低コスト化
  - ✓ 自動化
- 自治体との連携
- 農家の理解・協力
- 持続運営可能な事業主体

# 農作業のロボット化

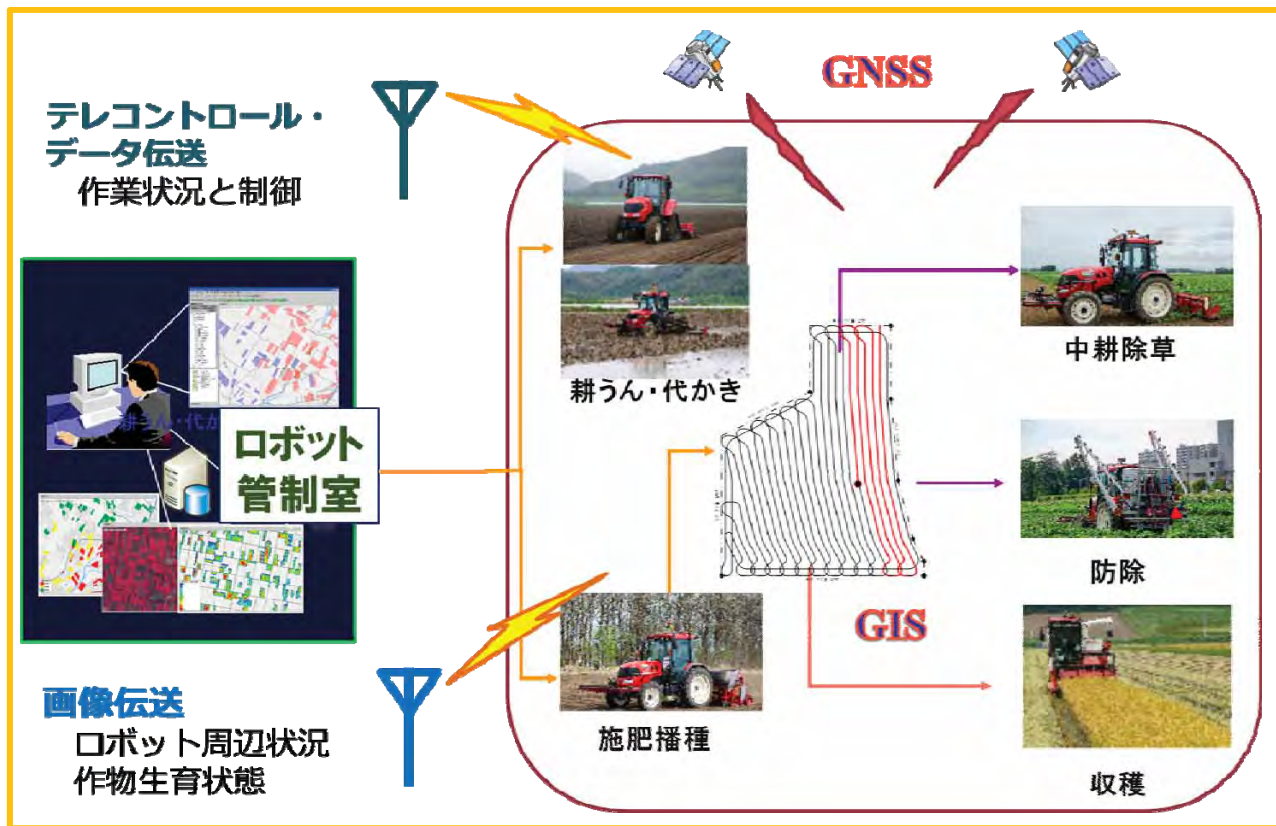


## KPI

2020年までに遠隔監視による無人作業システムの社会実装 (官民対話における安倍総理の指示)

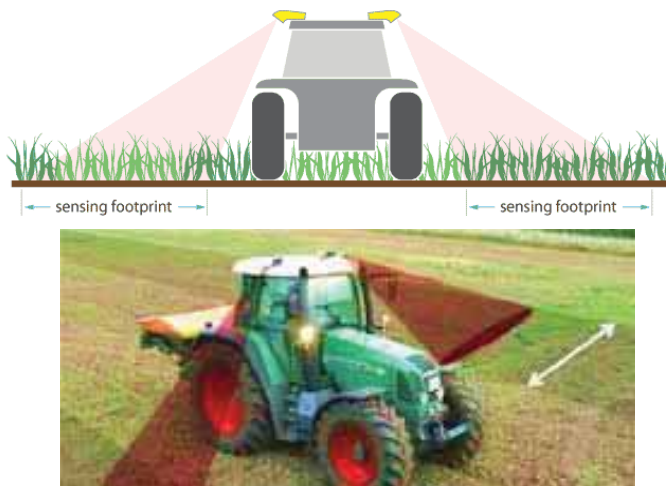
### 期待される効果

- ◆ 労働力不足の大幅改善
- ◆ 作業精度・作業能率の向上
- ◆ 農業従事者の業務内容の転換

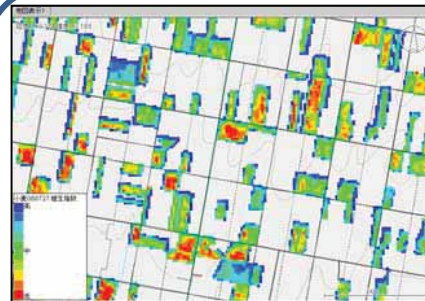
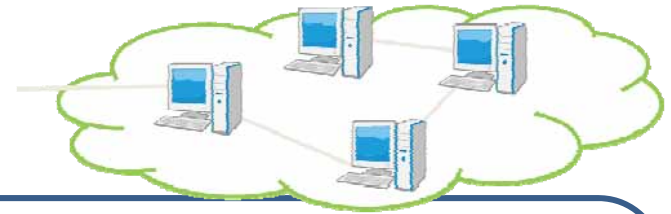


## 米と小麦について品質・収量の高位安定化

現在  
トラクタや管理機に  
センサを搭載して  
可変施肥



ドローンによるリモートセンシング

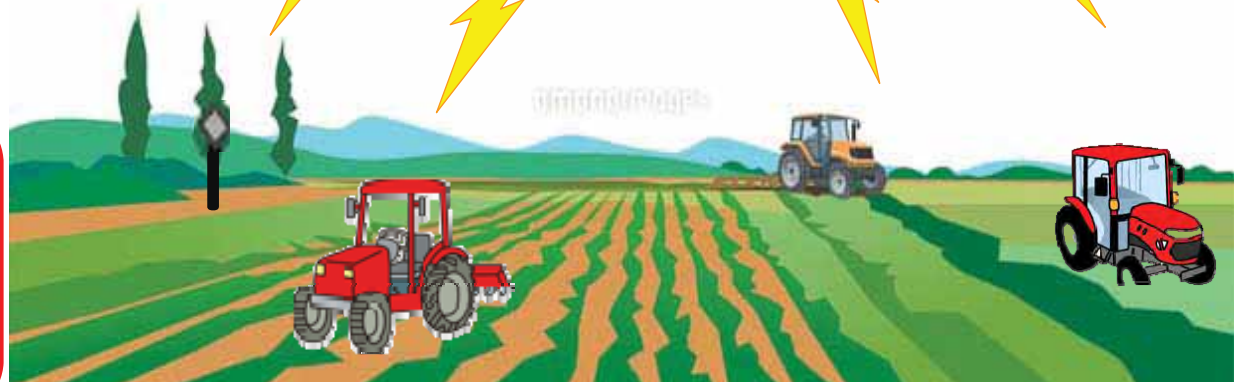


- 土壌肥沃度マップ
- 作物窒素ストレスマップ
- タンパク含量マップ
- 収量マップ

農家が生育センサを所有



地域で空間情報を共有







施肥・播種



除草



農薬散布



収穫